

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1191800224		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホーム プレミア草加南		
所在地	〒340-0033 埼玉県草加市柳島町890-4		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和5年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、ご家族との面会も制限付きとなっている。希望がある時には電話での会話を楽しんで頂くなどできる範囲での支援を行っている。</li> <li>・日々の生活の中で身体状況の変化など迅速に対応できるよう気づきをもって支援し、詳細を主治医に報告し連携を図っている。</li> <li>・物忘れの進行や下肢筋力の低下により身体機能の低下のリスクも高くなっている。日々のレクの中で手先を使った物づくりやお好きな歌を唄いながら身体を動かす体操など興味をもって行える支援を心がけている。</li> <li>・複合施設の利点を生かし、今後の不安や相談を受け、住み慣れた地域での環境で継続して安心な暮らしができるように支援を行っている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぬくもりある暮らしの中で、その人らしい生活を支援します」の理念のもと、キャリア豊富な職員を中心とした良好なチームワークのもと、利用者の思いとそのらしさを大切に、レクリエーションやおしゃべりを楽しむなど、利用者の明るく健やかな暮らしに結び付けられている。</li> <li>・運営推進会議は、コロナ禍で対面での開催が困難となる中、事業所や利用者の状況を書面にまとめ、会議のメンバーに届けて意見等を伺い、会議の代替とされている。</li> <li>・目標達成計画の達成状況については、台風被災後の水害発生を想定し、避難誘導訓練などに取り組まれている。また、備蓄品保管場所の変更やライフライン寸断時の対策や整備などに取り組まれていることから、目標達成への取り組みが伺える。</li> </ul>
---

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	お一人おひとりに合ったサービスの提供と利用者様の気持ちが理解できるよう努めている。利用者様の状態の変化を職員が共有し、検討し実践し、安心して生活を行って頂ける支援を行っている。	「ぬくもりある暮らしの中で、その人らしい生活を支援します」の理念のもと、利用者一人ひとりに寄り添い、安心して健やかに暮らせるようチームケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症により活動が難しくなっている。職員と屋上に行き日光浴や家庭菜園を楽しんで頂いている。	コロナ禍の中、ボランティア等との交流は出来ないものの、町会や地域住民との交流など、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう基盤づくりに努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談に関しては、電話や短時間ではあるが相談・課題であるサービスの説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症により1度だけの開催となっている。活動状況報告、新型コロナウイルス感染症についての状況報告を行い、委員の方からアドバイスや要望を頂いている。	運営推進会議では、書面報告になるが、事業所からの利用者の暮らし振りや活動報告をし、事業所の取り組みについての意見や評価、地域の情報提供を頂くなど、有意義な会議運営をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新手続きや相談事例が発生した時には、担当者に連絡する等、相互間で協力体制をもち臨んでいる。	報告・連絡・相談時などでコミュニケーションを図られるほか、各種情報提供や抗原検査キットの支給など、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」「拘束廃止」の研修を行っている。3ヶ月に一度、GH内で委員会を開催している。	身体拘束適正化委員会が定期的にかかっている。その機会に、拘束に関する学びの時間を持ち、身体拘束の内容とその弊害が確認され、言葉での拘束を含め、行動抑制をしない介護を実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の「尊厳の保持」と「虐待防止」に関する意識付けと知識を高める研修を行っている。事業所全体では緊急保護を受け入れ、防止に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	独居の方からの相談が増えている。成年後見制度の支援も行っているため、職員の知識向上にも繋がっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にサービスの内容説明を行っている。不安や疑問には解りやすい説明を心がけ理解して頂いている。介護保険の改定に関しては、新型コロナウイルスの影響で説明会開催が難しいので、文章送付にてご理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に電話やメールで、日ごろの様子をお伝えしている。請求書送付時には様子を分かりやすく文章にてご報告している。改めてご家族から得られる情報を共有し支援に反映している。	「いちごパフェが食べたい」「服を買いたい」など、利用者の要望に応えられている。家族については面会時などで意見・要望を聞き取られ、サービスや運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者もユニットに関わる事で職員の疑問点や改善点を把握し、職員間で共有し職員の考えを反映できるよう努めている。	発言し易い職場環境がつけられ、申し送りミーティングなどの機会に意見交換をされ、レクリエーション企画や個別ケア対策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人規定に則り、資格や経験を加味した給与水準の対応がなされており、職員の意向も踏まえて職場環境の充実も図られ、働きやすい職場となっている。職員の定着率も高くなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回の施設内研修を行っている。個々の力量に合わせた外部研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加しているが、新型コロナウイルスの影響で中止をせざる得ない状況となっている。近況はメールなどを通して行っている。活動時には互いの施設見学を行っている。定期的に空き情報を共有し早期に入居できるネットワーク作りを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の面談での詳細な情報を職員と共有している。情報をもとに対策の検討を行い、ご入居後、安心安全で円滑なケアが提供できるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちに寄り添えるよう不安な事や心配な事を受け入れ、安心して頂くよう丁寧な説明に心がけながら信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご見学・相談時に現状のご理解と、ご家族とご本人との会話の中から必要性を見極め、利用者様にとって適切なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションの中から知り得る情報を受け入れ、信頼関係の構築と支援方法を把握するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により外出や面会が難しくなっているが、衣替えの衣類や介護保険類の書類をご家族がお持ちになった際に短時間の玄関先での面会や日頃のご様子をお伝えしている。遠方のご家族などには電話での会話を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内の家具は自宅で過ごされていた馴染みの物や家族の写真、家族から頂いた縫いぐるみなどを飾っている。ご姉弟からの電話やご家族からのお手紙の支援も行っている。	最近では自粛されているが、親族の面会や友人との手紙のやり取り、花見やドライブ、家族の協力を得て自宅に戻られ、ゆっくり過ごされるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や余暇活動で利用者同士が共通の話題を持てる場を職員が介入し提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	複合施設なので他事業所にご入居されても、ご様子の経過の報告や家族の相談を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々のご様子や状態の変化は、毎日の申し送りで職員全員が把握できている。利用者の意向や支援方法など居室担当を中心に話し合いを行っている。	利用者とのコミュニケーションを大切に、声かけを行うことで、思いや意向の把握に努められている。意思疎通の難しい利用者についても、日頃の関わりの中で、表情や仕草などから汲み取られ、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のご様子の詳細は、アセスメントにより職員が把握している。利用者や家族の意向などを職員が共有し希望がかなえられるよう居室担当を中心に話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活パターンを把握し、コミュニケーションから得る情報と身体状況の変化や状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お電話や毎月のお手紙でご様子をお伝えしている。緊急時や相談はお電話で行っており、ご家族からの情報と問題点の抽出と利用者の想いを踏まえ、自立支援に繋げられるよう計画書に取り入れている。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、担当職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、きめ細かい介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は申し送りやPCで管理し、出勤時に目を通し状態の把握を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が安心できるよう必要に応じたケアが実践できるよう、日々変化する利用者様の状態の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍なので地域資源を活用する事が難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の訪問診療を月2回行っている。主治医の診察で専門医の受診が必要な際は、受診を行っている。受診結果情報は主治医に送られ、その後の対応に活用されている。ご家族の希望があれば往診や受診に同行して頂いている。	内科、歯科、眼科、皮膚科の訪問診療があり、充実した医療が受けられている。他の診療科の際には職員が同行し、診察内容は家族や職員間で共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化や気づきを看護師出勤時に行い、緊急の場合は特養看護師に相談する事もあり、必要に応じて主治医に連絡し指示を仰いで頂く連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には付き添いを行っている。退院時にはIP看護師との面談を行っている。必要とされる介護サマリー等の情報提供を行っている。コロナ禍で面会が難しいので、入院中はご家族との連携と病院関係者との情報交換で退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診日にご家族に同席して頂き、ご本人の状態と今後の治療方針についての話し合いの場の提供を行っている。終末期の利用者様に関してはご家族の面会は制限なしとしている。以前行ったアンケートでは看取りについての話し合いを持った。現状では急変時の対応を入居面談時にご説明している。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思の確認を進めながら、医師・看護師と連携のもと、重度化や終末期支援に取り組まれている。	看取り支援を経験した職員もおり、研修も実施されています。終末期ケア技術の組織的向上を図り、ここに入所して良かったと思っける支援が行える取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当や急変時の対応を施設内研修で学ぶ機会を持っている。急変時の主治医やご家族への連絡方法など提示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルの作成と、年2回以上の水害・火災・地震を想定した訓練を行い知識を高めている。夜間を想定した訓練も行っているが、周知が難しくなっている。	定期訓練では、台風被災後の水害発生を想定し、避難誘導訓練などに取り組まれている。また、備蓄品保管場所の変更やライフライン寸断時の対策や整備など、取り組まれている。	災害対策は十分取り組まれています。高齢者を預かる事業所として、訓練を重ねて課題を見つけ解決するなど、組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居前の生活歴や社会歴を理解し、お一人おひとりを敬い、不安のない生活を送って頂けるよう、安心できる声かけと必要な支援を行っている。	居室やトイレでの排泄介助時には必ずドアを閉めること、入浴時の羞恥心への配慮など、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわぬよう気遣いを持つなど、きめ細かな対応が取られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションから得られる利用者の希望や思いを汲み取り、意思決定能力を引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日常生活のリズムを把握し、職員都合にならないようご自分のペースで過ごして頂く支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や好みの衣類、入浴後の肌の手入れや髭剃り、理美容の利用、また好みの色のマニキュアなど、身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とのお手伝いでテーブル拭きや食卓のセッティング、洗濯物たたみを行っている。食事の盛り付けでは目で見て「美味しそう」に見える盛り付けをおこなっている。食事形態は利用者の状態に合ったもので提供している。	利用者の個々の状態に合わせて、食事の準備や後片付けなどを職員と共に行っている。利用者の希望に添いお寿司や丼物が提供されたり、パフェやケーキを楽しまれるなど、食の楽しみを大切にした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食材と献立を使い食事作りを行っている。毎月体重管理を行い増減のある方や嚥下状態、義歯の方、噛み合わせが悪い方などには、食事量の調整とお一人おひとりに合った形態の食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。夕食後の口腔ケアで義歯をお預かりし義歯洗浄剤で消毒している。ご自身で歯磨きを行う事が難しい方は、職員が介助やチェックを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄表チェックによりお一人おひとりの排泄の間隔が把握できている。トイレでの排泄が行えるよう声掛けを行いスムーズに個別支援ができています。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄表のチェックにより排便状況の把握ができています。日課の体操への参加と好みの飲み物や水分ゼリー等提供しスムーズな排泄が行える工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人おひとりに合った声掛けの工夫を行っている。日々の状態を把握しながら入浴できるタイミングで声掛けを行っている。入浴が苦手な方には「入浴券」を作成するなど個々に合った工夫をしている。月に一度、季節感を楽しんで頂ける「変わり湯」を行っている。	週2回の入浴を基本とされているが、利用者の状況や希望に応じて柔軟に対応されている。現在の利用者の状況から一部湯船につかることは出来ず、シャワー浴となっているが、安全で安心な支援体制のもと入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿った臥床時間での支援を行っている。季節に合わせた寝具の調整や就寝着、照明の明るさなど安眠の場の提供を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬情報の把握を行い、お一人おひとりに合った服薬介助を行っている。内服薬の変更に關しては申し送りで職員が周知し、ご様子の経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりが様々な生活歴をお持ちなので、個々にお持ちの力を生かせる創作活動や孤立しないレクリエーション活動や体操など個人の楽しみをお持ちいただけるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症のため家族との外出が難しくなっているが、施設職員とのドライブや天気の良い日には屋上散歩の支援を行っている。	現状、外出自粛の為、屋上での散歩、外気浴や家庭菜園などを楽しまれている。また、屋内での運動のほか、限定的であるが花見やイルミネーション鑑賞に出かけられるなど、気分転換と運動不足解消を図られるよう支援をされている。	



## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物忘れの進行により妄想の周辺症状が出現されている利用者様が多く、お金の所持は難しくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じてご家族との電話での会話を楽しんで頂いている。年賀状や暑中見舞いなどご友人からのお手紙での交流も持たれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた設えを行っている。職員が中心となり手先を使った設え作りを行っている。危険の無いよう安全な動線の確保と見守りを行っている。	リビングダイニングの設えで、華美に飾ることなく木のぬくもりを活かした落ち着いた造りで、3人掛けなど多種のソファが置かれ、気持ち良く、ゆっくり過ごせるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いお仲間とコミュニケーションをとられたり、テレビを見られたり、自室にて過ごされるなど、ご自分のペースで過ごされる時間を持つ環境の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居前に自宅で使用されていた仏壇、時計や家族写真や縫いぐるみなど、安心して過ごして頂けるよう工夫をしている。居室にはご家族が面会時に寛げる椅子も置かれている。	馴染みの家具、家族の写真や仏壇などが持ち込まれ、居心地良く、落ち着いて過ごされるよう工夫をされている。また、共用スペースを含め、毎日清掃、換気や消毒を行うなど、清潔維持と感染症対策に取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解りづらかったり、手洗い時の水洗の閉め忘れ防止のための提示を行っている。職員介入時でもご自身で出来ることは行って頂きながら残存機能を生かせる工夫を行っている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームプレミア草加南

## 目標達成計画

作成日: 令和 5年 5月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	高齢化や感染症の影響で病院での受け入れも難しくなっている。ご家族より、看取りでの希望をされている方も増えている。	職員全員が看取り支援にスムーズに参加できるよう、医師や家族との連携のもと支援方法などを共有し、利用者と家族を支えられる環境を作る。	看取り経験者の意見や外部研修への参加に向けた準備を行っている。	6ヶ月
2	35	定期訓練は行っているが、全員での訓練は難しくなっている。	ひとつの災害により複数の災害につながることを想定しての訓練を行う。(地震から火災や水害など)	様々な災害と全災害(地震、火災、水害)を同時発生した際の訓練を計画している。	9ヶ月
3	2	コロナ禍により、地域とのコミュニケーションや、外出する機会がなくなっている。	外出には制限があるが、車でのドライブやボランティアを迎えての他者との交流の場を提供する。	1年間のレク活動以外に、季節の移り変わりを感じていただける外出レク(ドライブ)や、花を植えたり、市のボランティアの方に来ていただく方向で進めている。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。